

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I ・ V 】
2 実施対象者	つくば市立竹園東小学校 全校生徒 677名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育・つくばスタイル科・生活単元学習)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (わかたけの時間)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの体験談を聞くことで、スポーツが果たす役割を理解し、オリンピックの生き方に触れる。 ・ボッチャなど新しいスポーツの体験を通して、スポーツや仲間と交流することの楽しさを味わう。
5 取組内容	<p>(1) オリンピアンによる講演会【5・6学年】</p> <p>【事前学習】</p> <p>つくばスタイル科の時間に①オリンピック・パラリンピックの歴史、②関心のある競技や選手などテーマを設け、調べ学習を行った。1人1テーマを設定し、A4用紙に新聞形式でまとめた。教室に全員の新聞を掲示し、情報交換の場とした。</p> <p>さらに、体育主任がオリンピック・パラリンピックや河合季信 氏（アルベールビル 銅メダル）についての話をして関心を高めた。</p> <p>【講演会】</p> <p>オリンピックに出場するまでの生き方の話やオリンピックの価値、東京オリンピックについて、映像や実物を使って話をうかがった。メダルやスケート靴を手に触れさせていただき、また児童の質疑にも丁寧に対応していただいた。</p> <p>(2) パラリンピック正式種目「ボッチャ」に挑戦</p> <p>ア 特別支援学級で体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックについて、競技や選手の写真やメダルの話など分かりやすい例をあげて知らせた。その後、ボッチャを体験した。 <p>イ 縦割り班活動（わかたけの時間）や6学年体育で体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動の内遊びでボッチャを紹介し、チームを編成しゲームを行った。ボッチャ体験の様子をHPに紹介し、保護者にも広めた。 ・6年生の体育で実施し、新しいスポーツに触れて楽しんだ。

(3) 運動できる環境づくり【全学年】

本校では、外遊びを積極的に奨励し、運動意欲を育てることに努めている。そこで、体育の授業と関連し、体育で行っている運動種目を強化月間（縄跳び強化月間）や強化週間（かけっこタイム）に設定して運動意欲を高めている。特に縄跳びは、各学年ごとに縄跳び大会を実施し、大勢の保護者が参観するので児童のやる気につながっている。4年生以上は学級対抗8の字跳びも種目に入っているので、業間休みや昼休みに各学級練習している。



【事前学習：ICT機器を活用した調べ学習と新聞作成の様子】



【オリンピックによる講演会】



【ボッチャに挑戦】



【かけっこタイム】

6 主な成果

- ・オリンピック・パラリンピックの歴史や競技を調べて掲示したことで、児童のオリンピックに関する予備知識を得ることができ、関心につながった。
- ・オリンピックを招待し、オリンピック・パラリンピックの価値についての話から、スポーツを通して人間性を高め、平和な社会を実現することが理解できた。メダルや使用していたスケート靴に触れた児童からは、「重みを感じる」などのつぶやきが聞かれた。また、感想からは「メダルは今の自分より上を目指して努力した結果だ」「スポーツは健康だけでなく、人間の心をよくし、仲良くなる方法だということがわかった」「スポーツをするといろんなことが楽しくなる」と生き方やスポーツの楽しさ、新たな

	<p>役割にも気づいた児童がいたこともわかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボッチャという新しいスポーツを体験し、チームワークを必要とするので交流する力が高まった。特に、ひまわり学級や縦割り班の体験は、異学年で行っているので、高学年児童のリーダーシップや低学年児童は教えてもらうなどそれぞれの役割を考え進めていた。また、ルールを自分たちに合ったものに変えたり、勝つための作戦を考えたりと、思考する場面もあったのでスポーツの新たな楽しさを味わうことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 自ら運動しようとする児童を育成するために、「オリンピック・パラリンピック」をキーワードに、意義や役割を調べ学習や講演会(知)で、努力目標の達成を縄跳びやかっこタイム(徳)で、楽しさをボッチャなどのゲーム(体)でと様々な方面から実践に取り組んだ。 • 本校が筑波大学に近いという立地条件もあり、保護者という立場でオリンピック出場者やメダリストが身近にいてくださり、講演会を実施することとした。そのおかげで時間を作っていただき、綿密な打ち合わせも行うことができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 小学校は、学年が多いので発達段階や実態に幅がある。そのため、取り組みについて学年に偏りがでてしまった。本校は、縦割り班活動がとても充実している。年間を通して計画的に活動できる取り組みを考えていけるとよい。 • ボッチャの器具は、つくば市の特別支援教育推進室から借用した。借用期間が決められていることや手間を考えると、ぜひ学校にそろっているとよい。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 学年・学級で競技やルールを自分たちで考えて竹園東小オリンピックを実施していく。 • 低学年は親子行事でミニ運動会があるので、保護者や地域とともに運動が楽しくなるような内容のものを実施していく。 • オリンピアンによる講演会は好評だったので実施していく。